

企画展 新規指定等文化財

登米市では令和5年度に「天文五郎兵衛関係資料」の市文化財指定、「津島神社」建造物3棟が国登録有形文化財となりました。これにより、市内に所在する指定文化財は240件、国登録有形文化財は9件32棟となります。今回の企画展では、新たに指定及び登録となった文化財を紹介し、市民の文化財に対する興味と関心を高めることを目的とします。



津島神社拝殿 大正12年(1923) 宗教法人津島神社蔵

津島神社建造物

津島神社は登米市迫町佐沼に所在し、本殿、拝殿、神輿殿の3棟が登録有形文化財となりました。本殿、拝殿は明治45年(1912)3月の佐沼大火で焼失し、本殿は大正8年(1919)、拝殿は大正12年(1923)に上棟されました。神輿殿は昭和10年(1935)に建てられました。本殿、拝殿に大正から昭和にかけて東北を代表する彫物師である石井寅正の作風が見られ、神輿殿とともに境内の歴史的景観を構成します。



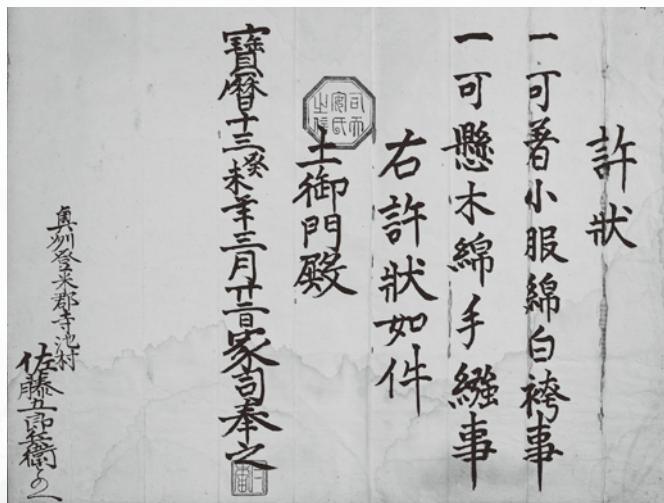
津島神社神輿殿 昭和10年(1935) 宗教法人津島神社蔵



渾天儀 明和6年(1769) 館蔵

天文五郎兵衛関係資料

江戸時代、登米郡寺池村に住んでいた佐藤五郎兵衛(1723～1810)が学んだ天文学に関する資料です。「渾天儀及び収納箱」、「潮汐天地儀盤」、「土御門家黒印許状」、「春海先生実記」の4件から構成され、いずれも仙台藩の天文学に関する資料で、登米地方における天文学の在り方を考える上で貴重な資料となっています。



土御門家黒印許状 宝暦13年(1763)3月22日 館蔵

